

【群馬県明和町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

群馬県では、新・群馬県総合計画において、「群馬の環境を生かした教育×デジタルを活用した新しい教育＝群馬ならではの新しい学び」の確立により、始動人（自分の頭で未来を考え、動き出し、生き抜く力を持つ人）の育成を目指している。

また、本町においては「第7次明和町総合計画」の重点戦略としてデジタル化の推進を掲げており、次世代を担う子どもたちのデジタル教育の充実を図っていく。

これらの施策によって、「自分で考え、動き出し、生き抜く力」を育み、変化の激しい社会に対応できる資質・能力を持つ人材の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

本町では、国のGIGAスクール構想に基づき、令和2年度から令和3年度までに町内小中学校3校の児童生徒に対し、計899台の1人1台端末の整備を完了するとともに、通信ネットワークや無線LAN環境の整備を行い、電子黒板を普通教室の他、一部特別教室にも設置、授業支援ソフトの導入などICTを基盤とした新たな学びの確立を進めてきた。

これにより、個別最適な学びや協働的な学びを実現する環境が整ったが、一方で教員のICT活用スキルの格差や、端末の適切な運用をめぐる課題も浮かび上がった。また、家庭でのインターネット環境の差が学習機会に影響を及ぼす可能性も指摘された。今後、これらの課題を解消し、ICTを活用した教育の質向上を図る必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

予備機を含めて端末を適切に更新し、1人1台端末の環境を引き続き維持することを前提として、以下のように活用していく。

(1) 1人1台端末の活用について

教員がICT活用の目的を理解し、ICT活用指導力を向上できるよう、ICT活用に関する研修を計画し、実施していく他、活用事例を教員間で共有していくことで教員間のICT活用スキルの差を埋め、学びの向上に努める。

端末の持ち帰りを奨励し、AIドリルやデジタル教材等を使うことでの家庭学習の推進を図る。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

AIドリルやデジタル教材の活用による「個別最適な学び」、授業支援ソフトの活用により「協働的な学び」の充実を図り、児童生徒1人1人の学習課題の解決を目指す。

(3) 学びの保障

希望する児童生徒に対し授業配信を行い、様々な状況にある児童生徒の学習の機会を確保する。また、端末を家庭に持ち帰ることで AI ドリルやデジタル教材を家庭で使用できるようにすることで、児童生徒の学びの機会を保障する。